

Association between Vaccination with the BNT162b2 mRNA Coronavirus Disease 2019 Vaccine and Noninfectious Uveitis: A Population-Based Study.

Tomkins-Netzer O, Sar S, Barnett-Griness O, Friedman B, Shyriaieva H, Saliba W. *Ophthalmology*. 2022 Oct;129(10):1087-1095. doi: 10.1016/j.ophtha.2022.05.015.

近年、新型コロナワクチンウイルス接種後の副反応と思われるぶどう膜炎の発症や増悪例が国内外問わず報告されています。本研究は新型コロナワクチン BNT162b2 (Pfizer/BioNTech) 接種と非感染性ブドウ膜炎の関連性を調査した集団関連研究です。データベースを用いて初回ワクチンを接種した 2,602,557 人及び 2 回目ワクチンを接種した 2,441,719 人が対象とされました。本研究ではワクチン接種後 21 日以内に発症した活動性非感染性ぶどう膜炎をワクチン関連ブドウ膜炎(VAU)と定義しており、初回接種後の VAU 発症は 3.85 人/10 万人、2 回目接種後の VAU 発症は 3.61 人/10 万人でした。これらのデータは、同時期に発表されたアメリカと日本からの同様の研究結果と同等でした。(Singh RB.et al, *Ophthalmology*. 2022, Hashimoto Y. et al, *Ophthalmology*. 2022)また対象群との比較によって、初回接種後 VAU の性別・年齢調整済標準化発症率 (SIR) は 1.41、2 回目接種後 VAU の SIR は 1.31 と算出されました。寄与危険度(AR)はそれぞれ 1.12 例/10 万人と 0.86 例/10 万人でした。また本試験における VAU の 90%は前部ぶどう膜炎であり、それらほとんどが点眼治療で改善されたと報告されています。これらを踏まえて著者らは、新型コロナワクチン BNT162b2 接種の有効性は VAU の発症リスクを上回ると結論づけています。一方で、本試験においてぶどう膜炎の既往のある患者の AR は約 1 例/1000 人まで上昇すると報告されており、さらに近年のワクチン接種後の感染性ぶどう膜炎の発症・再活性化の報告などを考慮すれば、ぶどう膜炎診療においては新型コロナワクチン接種とぶどう膜炎の関連性について十分に認識をして患者対応にあたるべきと考えられます。(担当者：神戸大学 松宮 亘)